



強欲な時代の終わり？

いま歴史の教科書で習った世界大恐慌の再来が、恐れられている。確かに昨年七月のサブプライム危機を発端とするアメリカの危機は、金融危機として全世界に飛び火し、株価の暴落から实体经济への波及を予感させている。タクシー業界に身を置くものとして、こ

の間の業界の苦境にさらに追い討ちがかかるのかと大いに心配ではあるが、しかし少し長いスパンで見れば行き過ぎた金融バブルが崩壊し、新しい秩序が生まれ出る陣痛の時代が始まったとも考えられる。陣痛の後新しい生命が誕生することを思えば、この陣痛を前向きに受け止めて行くことも必要かなとも思う。

再起？の団塊耕志録

今回、本紙「タクシージャパン」で「団塊耕志録」という題でコラムを掲載させて貰う事になった。実は「団塊耕志録」という名のコラムは、弊社の関連会社で運営する「タクシーサイト」で二〇〇一年より連載が始まったのだが、筆者の怠慢によりわずか九回で休筆（挫折？）になってしまった。今回タクシー日本新聞社高橋社長の「何か書け」という命令にかこつけて、このコラムを再開させて貰う事にした。「タクシーサイト」より怖い編集者のいる本紙の方が長続きするので

清野吉光氏のコラム

団塊耕志録 第1回

清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2003年タクシーサイト代表取締役社長就任。2005年代表取締役会長に就任。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



団塊世代の社会的実践とは

は無いかと言う、極めて他力本願の安易な発想からではあるが……。

団塊世代の責任

私は昭和二十五年生まれだが、早生まれで昭和二十四年生まれの人と同じ学年であり、所謂団塊世代のお尻になる世代だ。「団塊」という言葉は元通産省の官僚で小説家、評論家でもある堺屋太一氏が造語したものであるが、世代として良くも悪くも社会に大きなインパクトをもたらした続けた世代である。数が多いという量の面だけでなく、六十年代後半から七十年代初めにかけての所謂全共闘運動やニューファミリーなどと、生活スタイルの質的な面でも大きな影響力を持ち、そして近年二〇〇七年からの大量の定年退職を迎え、退職後の生活を団塊世代がどのように送るかが日本の社会の活性化に少なからず影響を与えていくと思われる。先日、十月十二日の日曜日、筆者の卒業した長野県の松本深志高校の卒業四十周年

の記念式典と懇親会が開かれた。卒業生の三分の一にあたる百六十名が出席、すでに七十五歳になる当時の恩師の記念授業を、有形文化財に指定されたという古い講堂で聴講した。各自の胸には名前と出身中学、そして卒業記念の若き日の写真が載ったカードがぶら下がっている。その写真と目の前の姿のギャップお互いに驚きつつ、懇親会では旧交を温め、また共に校歌や応援歌を高唱した。旧制高校の同窓会ではよく見られる姿ではあるが、しかしまたそれを単に若き青春時代の感傷を懐かしむ事だけに終わらせない、新しいコミュニティの創造への萌芽も生まれている。団塊の世代は若き日に様々な立場の違いはあるうとも社会に向かつて様々な働きかけを行い、変革を夢見た世代である。その多くは挫折をし、その代償なのか、モータリゼーションとして自分の会社や組織を、体を張って支えてきた。いまここでその会社や組織を卒業するにあたって、今一度自分の人生を総括(い

まどき流行らない言葉だが）する責任があると思う。そして成功と失敗の経験と、その中で次世代に継承すべき価値はなんなのかを（余計なお世話と言われるかもしれないが）提示すべきだと思う。団塊の世代の多くはその子育てに失敗したと言われる。当時ではわからなかったが、今なら少しはその原因がわかるかも知れない。御節介と言われようと、団塊の世代はいままで曖昧にしてきた自分の歴史と価値観を吟味し、その教訓を生かした社会的実践にささやかでもトライすべきではなからうか？

耕志というスタイル

このコラムの「団塊耕志録」というタイトルは、団塊世代の筆者が「志」を「耕してきた」録（記録）というような意味合いだが「耕志」という言葉は私の勝手な造語で広辞苑にも載っていない。が、この言葉は私の清水にある自宅建物の表札は「耕志舎」と掲げてあ

る。この言葉は「志」を持つて生きて行きたいなという願望と、「結果はあまり問わないよ」という少しお気楽な気持ちの二重の意味がこめられている。ビジネスの世界ではもちろん結果を問われるし、結果を出さなければ意味がないとしばしば言われる。でも私は「志」を耕す、耕し続ける事に意味があると思っている。それで十分だと思っている。「志」を「実現」できればそれに越したことはないが、志を育み続ける姿勢こそ大事なのではないかと思う。言わば「耕志」というのは生きていくスタイル（姿勢）のようなものだと思う。

タクシーと志

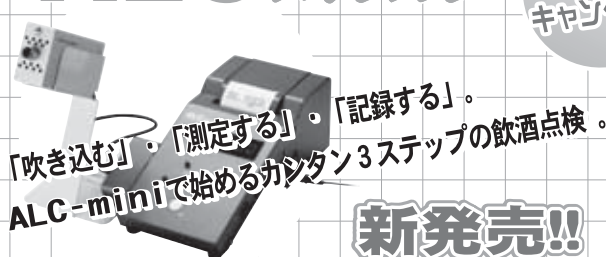
そして志は何であつても良いと思う。もちろん単なる個人の夢と「志」とは少し違う概念で、「志」には「世のため他人のため」という多少の社会性が必要だとは思いますが、それは天下、国家の大仰な世界ではなく（もちろんそういう世界でも構わないが）、家族から地域、

あるいは会社、業界などより身近なコミュニケーションのために「志」を夫々が抱く事で十分だと思う。たまたま縁あって、タクシー乗務員を経験し、そしてまた奇妙な縁に導かれて、タクシー会社をお客様とするソフト会社をやらせて戴くことになった。最初は会社をトにかく維持させることに必死だったが、二十周年を経て、タクシー業界全体の発展の為に何かお役に立ちたいという「志」を持たせて頂くようになった。これは実は業界の為というより、自分の為という気がしている。そしてそうした「志」を持たせて頂けるだけでも有難い。そして私は「タクシーの新しいビジネスモデル創造」＝産業インキュベーションという大きな役割りを（勝手に）引き受けようとし、しかし現実の自分たちの力不足に呻吟しているという状態だが、十年、二十年の課題としてやりがいと生きがい不足は無い。自分でできなければ、この志に共感する次の人がきつと引き継いでくれるだろう。



このコラム「団塊耕志録」はこうした試みの右往左往を触れてみたい。さらに、私のタクシー乗務員時代、そして「志」に反して世間に迷惑をかけたばなしの活動家時代、オリジンの創業と二〇一三年の三十周年に至る広い時空間で、順不同、尚且つシステムオリジンの立場を時には踏み外して書いてみたい。まずは挫折した「団塊耕志録」のコラムを再起させる事が、私の「志」のスタートである。

業務用アルコール濃度測定器
ALCmini



製品貸し出し
キャンペーン

「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-miniで始めるカンタン3ステップの飲酒点検。
新発売!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載！
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現！！
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

＜お申し込み・お問い合わせ＞

株式会社システムオリジン

TEL:0543-61-0210

本社 〒424-0809 静岡市清水区天神1-3-12
拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海
名古屋・関西・中国・九州

＜製造元＞

東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>